

ねらい

博物館には、学校・家庭にはない膨大な資料と情報の蓄積や高性能な機材があり、更にそれを専門に扱う職員がいます。博物館と学校が連携してこれらを活用することは、学校の「教育力」を向上させる大きな力の一つとなり、毎日の授業のさらなる充実につながると考えます。

そこで、博物館では「学ぶ楽しさ」を味わう学習活動を展開することを目的に、学校と積極的に連携・協力を図りながら、体験などを取り入れた学習支援活動を実施しています。

現状と課題

○ 常設展示室

常設展示室では、年間を通して学習支援展示を実施しています。小学校6年生を対象とした「大昔の四日市－弥生時代と古墳時代」や全学年を対象とした「四日市空襲と戦時下の暮らし」、※「近代四日市港と稲葉三右衛門」、※「四日市の産業（萬古焼・製糸など）」、※「東海道と四日市」、小学校3年生を対象とした「むかしの暮らし」です。

【※はいずれかのテーマで実施】

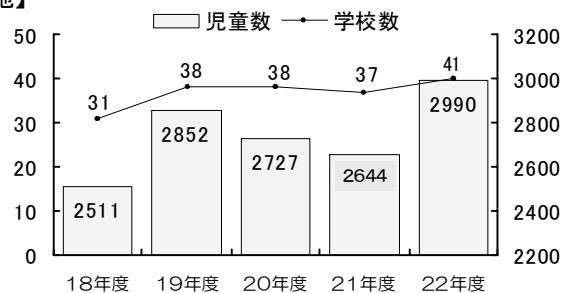
<学習支援展示「むかしの暮らし」団体見学利用状況>

【平成22年度は企画展「なつかしい暮らし」として実施】

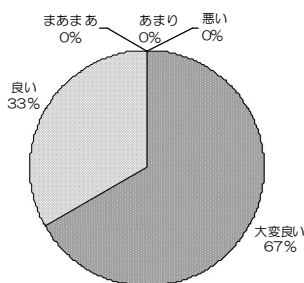
学習支援展示「むかしの暮らし」は社会科の学習支援として授業をより充実させるために、実際の道具の展示・体験、ボランティアによる体験談、ワークシートなどを活用しています。ワークシートは、ほとんどの学校が活用しており、事前学習や事後学習などの活動を支援することができました。

また、学校との事前打ち合わせを充実させ、学習のねらいについて博物館と教職員との共通理解を図ったことで、事前学習・見学当日・事後学習の流れを各学校の学習状況に合わせる事ができました。

【見学校推移】



【教職員の満足度】



見学当日は、博物館職員、ボランティア、教職員が連携・協力を図って活動を支援しました。子どもたちは、校内だけでは得られない体験に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいました。

「むかしの暮らし」以外の学習支援展示も、より多くの学校が利用していけるように、教職員を対象とした「体験的博物館講座」などで、展示内容や資料、体験グッズなどの情報を提供し、学習支援の展開や効果について広く呼びかけていきます。

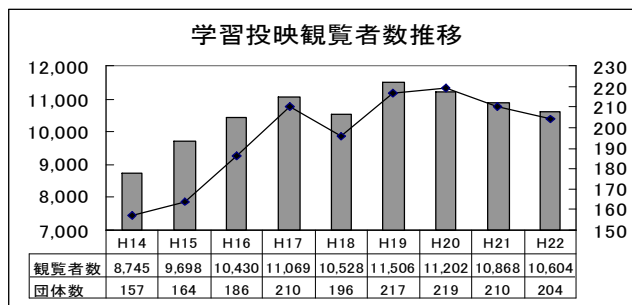
## ○ プラネタリウム

プラネタリウムでは、学習支援活動を大きく2つに分けて実施しています。

### ① 学習投映

全学年を対象に学習投映を実施し、星の動きや見つけ方、月の満ち欠けなどについて学びます。

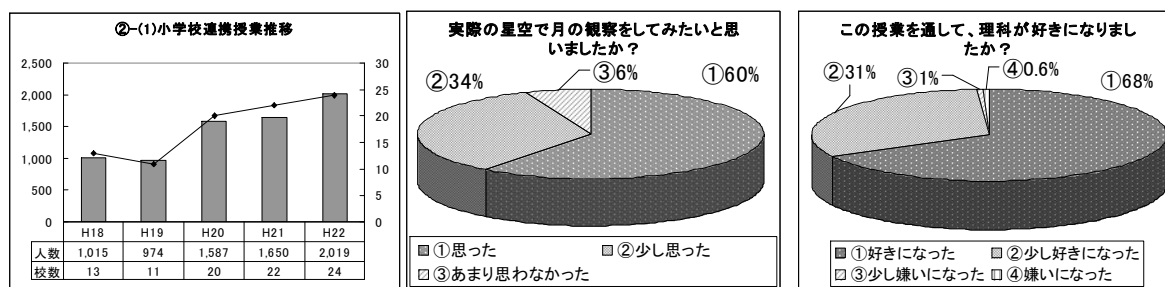
評価項目	5段階評価 (平均)
児童が星に興味をもった	4.1
理解できる内容であった	4.9
今後の学習に活かせる	4.6



### ② 連携授業

#### (A) 小学校4年生での連携授業

立体映像装置を用いて、月の動きや宇宙開発について学びます。



#### (B) 中学校3年生での連携授業

移動式プラネタリウムを用いて、太陽や星の日周運動、年周運動、皆既月食などについて学びます。



連携による授業では、時間や天候に関係なく計画的に天体の学習を行うことができます。宇宙空間を疑似体験することで、本当の星空でも学習してみたいという子どもたちの意欲につながりました。また、この授業を通して理科好きの子どもたちを育てるきっかけになりました。

今後は、新しいコンテンツの開発などを行い、「学ぶ楽しさ」をより味わえる授業を実施するために、各学校と協力し積極的に連携を進めます。

## 今後の方向性

- 展示内容を工夫するとともに、体験グッズやワークシートの充実を図り、より発展的な学習ができるようにします。
- 学習意欲を高めるため、地域の素材を活かしたコンテンツを数多く制作します。
- 学校投映や連携授業などの実施については、各学校の授業の進捗に合わせ、柔軟に展開していきます。